

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案書

(整理番号) 093	提案機関名 畜産技術センター企画指導部普及指導課
要望問題名 イナワラの活用	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 従来からイナワラは、乾燥させて酪農家や肥育農家で活用されてきた。しかし最近、稲作農家側の労力不足もあり、コンバインから排出させる際に細断し土壌還元する例が増え、ほ場で乾燥させて利用する例は少なくなっている。 そこで、稲作農家側の負担も軽くし、既存機械を活用してイナワラを有効活用できる方法を検討していただきたい。	
解決希望年限	① 1年以内    ② 2～3年以内    ③ 4～5年以内    ④ 5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター 農業技術センター	担当部所	企画研究課 生産技術部野菜作物研究課
対応区分	① 実施    ② 実施中    ③ 継続検討    ④ 実施済    ⑤ 調査指導対応    ⑥ 現地対応    ⑦ 実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	<p>稲わらの生産量の7割がすき込みなどに利用され、飼料用として利用は1割にとどまっています。飼料自給率向上や飼料の安全性対策のためには、国産稲わらの飼料用としての利用は大きな課題となっています。</p> <p>一方、稲わらの飼料利用については、以前より多くの研究が行われており、最近ではより収穫直後の稲わらを乾燥せずに収穫してサイレージ調製する生稲わらサイレージについて研究成果が示されています。また、圃場での稲わらの収集には、ロールベア等が利用されている事例が多いと思います。ご提案の課題につきましては、既存機械の保有状況や圃場条件等、県内の実情を調査して対応を検討したいと思います。</p> <p>コンバイン収穫後のイナワラのサイレージ利用は、富山県で先進的に行われています。2014年に富山県農林水産総合研究センター畜産研究所は、走行部がクローラ型の自走式ローラベアやフレール型飼料イネ専用収穫機を用いてコンバインで裁断されたイナワラの回収率を検討し、3割程度が回収可能であることを報告しています。</p> <p>イナワラ回収率を高めるために、土壌の混入を防ぐことが課題となっており、2010年に生物系特定産業技術研究支援センターでは、汎用型飼料収穫機を利用し、17cm程度のイナワラの回収率は5割になると成果報告しています。また、栽培・作業上の留意点は、土壌が盛り上がっている部分避けること、拡散や集草を極力行わないこと、倒伏しにくい品種を選定することなどがあります。</p> <p>今後、研究の進展に伴って新たな知見が出ましたら、随時、情報提供します。</p>		
解決予定年限	① 1年以内    ② 2～3年以内    ③ 4～5年以内    ④ 5～10年以内		
備考			